

100 年先の「たけはや」を想い

八ヶ岳南麓、
近年の「自然」に意識がいていない開発には
目に余るものがあり、心が痛みます。

昔は当たり前だった八ヶ岳高原の「自然」の風景を見る事が
年々出来なくなってしまっています。

一面オレンジ色だったレンゲツツジはどこに消えてしまったのだろう？

コナシ、ズミ、野バラ、ノリウツギ、クマノミズキ、
ヤマナシ、ヤマボウシ等々の白花がいっぱいだったあの新緑の景色はどこへ？

山梨県の「県の木」カエデも少なくなりました。
山荘には6種類のもみじ、カエデがありました。今も元気に生活しているのでしょうか？

去年の夏には、いつも咲いていた山野草が激減しました。

あんなにたくさん群れて咲いていたミズヒキソウ、ウツボ草も
元気が無く、驚くほど減ってしまいました。

ワレモコウがあまりにも少なくなって、鉢上げして保護もしました。

そして帰化植物の侵略・・・

周囲の地下の水の流れも、ここ数年で大きく変化し、植生に影響し出しています。

自然環境の変化のスピードが驚くほど早くなっていると日々実感します。

受け入れるしかないのか？

今ならまだ間に合うのでは？

今ならギリギリ、取り戻せるかもしれない！

そう思うと、光が差し、希望が湧いてきます。

全ての生き物が繋がり合う「たけはや」の豊かな自然環境、生命環境を
次世代に残す役割がわたしたちにはあると思っています。

一度人の手の入った森は、手を入れ続けて「杜」として維持する。
シンボルツリーのヤマナシ、シナノキ、オオモミジ、、
そこに宿る竹早の杜の精霊たちの助けも借りて。

そして、吉村順三氏設計のセミナーハウスは
自然との一体感を大切にして両サイドが大きなガラス窓になっています。
風が通り抜け、天窓からの彩光も楽しめます。
植生豊かな「竹早の杜」に囲まれた環境があって初めて、
吉村順三氏の設計、理念が生きてくるのです。

竹早の杜、竹早山荘をより豊かな環境、場になるよう保全してゆくことが
わたしたちの使命と自覚し、その思いを表明し、
志を同じくする人々のご理解、ご協力を仰ぐ事ができれば幸いです。

岳からのせせらぎが流れ、杜の木々はそよ風に踊り、池には蜩が飛び交う。

仕方が無いと諦めないで、
100年先の「たけはや」を想います。

今なら未だ間に合う・・・。

代表 岩田 隆子